

家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響  
に関する評価指針改訂の検討について  
(2003年以降の知見の反映)

## 1. 背景

薬剤耐性菌 WG は、2021 年 3 月 8 日に開催された第 31 回会合において、評価指針改訂作業に着手をし、評価指針を①国際動向、②2003 年以降に得られた知見、③水産動物の評価の 3 つ大きな要素についてそれぞれ審議し、1 年かけて改訂する方針を確認した。うち①の国際動向について、第 33 回 WG において概ね審議を完了、今回からは②2003 年以降に得られた知見について検討をする。

## 2. 第 33 回薬剤耐性菌 WG において継続審議となった事項

- 共耐性の脚注の修正（荒川委員）
- 用量—反応関係の説明の修正（豊福委員、早山委員）

## 3. 第 34 回薬剤耐性菌 WG における審議

2003 年以降に得られた知見を評価指針に反映する作業を行う。

具体的には、2003 年以降初めて評価結果を通知した「モネンシンナトリウム」から直近評価結果を通知した「スルフォニアミド系合成抗菌剤」まで、全ての評価事例を分析し、以下の事項を検討した結果（資料 6）を踏まえて作業を行う。

- ① 評価のポイントとなった事項を洗い出して比較した時に、一貫して適用されている考え方があるか。言い換えると、2003 年評価指針作成当時は不確定であったものの、評価を進めるにつれ、その考え方が成熟し、現在においては一貫した判断基準に基づく評価が行われている部分があるか。その考え方又は判断基準を評価指針に盛り込む必要はあるか。
- ② 評価書と評価指針の整合性

## 4. 今後のスケジュール

9 月 17 日を含めて 12 月までに計 3 回の WG<sup>1</sup>を開催し審議完了を目指す。  
次回は、全体を通して評価指針の改正を検討する予定。

## 5. 結論

3. について資料 6 に分析結果をまとめた。前回からの継続審議事項及び資料 6 の推奨事項を踏まえ、資料 7「家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針（平成 16 年 9 月 30 日食品安全委員会決定）の改訂案」について、審議。

<sup>1</sup> 9 月 17 日、残り 10 月～12 月に 2 回を開催予定